令和7年度「水道事業ガイドライン」業務指標（PI）算出結果の概要

1 「水道事業ガイドライン」業務指標（PI）について

「水道事業ガイドライン」に示された業務指標(PI)は、水道事業の多岐にわたる業務を一定の算式により定量化し評価をしやすくすることにより、サービス水準の向上を図ることを目的として、（公社）日本水道協会が平成17年1月に制定したものです。その後、平成 28 年 3 月に規格改正を実施し、「安全で良質な水」、「安定した水の供給」、「健全な事業経営」という３つの目標、119 項目に分類されています。

【目標別業務指標】

安全で良質な水（13 項目） ～ 水道水の安全性をより一層高め、良質な水道水を供給 ～		
運営管理（13 項目）		
	水質管理（9 項目）	A101 平均残留塩素濃度 A102 最大カビ臭物質濃度水質基準比率　等
	施設管理（2 項目）	A201 原水水質監視度 A203 配水池清掃実施率
	事故災害対策（2 項目）	A301 水源の水質事故数 A302 粉末活性炭処理比率
安定した水の供給（35 項目） ～ いつでもどこでも安定的に水道水を供給 ～		
運営管理（18 項目）		
	施設管理（7 項目）	B104 施設利用率 B105 最大稼働率　等
	事故災害対策（6 項目）	B201 浄水場事故割合 B204 管路の事故割合　等
	環境対策（5 項目）	B301 配水量１㎥当たり電力消費量 B302 配水量１㎥当たり消費エネルギー　等
施設整備（17 項目）		
	施設管理（2 項目）	B401 ダクタイル鋳鉄管･鋼管率 B402 管路の新設率
	施設更新（5 項目）	B501 法定耐用年数超過浄水施設率 B502 法定耐用年数超過設備率　等
	事故災害対策（10 項目）	B602 浄水施設の耐震化率 B602-2 浄水施設の主要構造物耐震化率　等
健全な事業経営（30 項目） ～ 健全かつ安定的な事業経営を継続 ～		
財務（22 項目）		
	健全経営（22 項目）	C101 営業収支比率 C102 経常収支比率　等
組織・人材（6 項目）		
	人材育成（5 項目）	C201 水道技術に関する資格取得度 C202 外部研修時間　等
	業務委託（1 項目）	C302 浄水場第三者委託率
お客さまとのコミュニケーション（2 項目）		
	情報提供（2 項目）	C402 インターネットによる情報提供度 C403 水道施設見学者割合

※（ ）内は、全 119 項目のうち、北千葉広域水道企業団（用水供給事業）が該当する 78 項目の内訳を示しています。

２　業務指標の算出結果について

令和７年度業務指標の算出結果について、昨年度と比較した状況は以下のとおりです。また、過去４年間の指標を別表に記載しました。

（１） 安全で良質な水

水道水の安全を確保するため、原水水質の監視や効率的な浄水処理、水道施設の維持管理を適切に実施し、水質基準に適合した水道用水を供給しています。

水質管理に係る指標については、昨年度と比較すると「総トリハロメタン濃度水質基準比率(A103)」の数値は改善しましたが、「無機物質濃度水質基準比率 (A106)」の数値は悪化しました。

事故災害対策に係る指標については、猛暑、少雨、河川水量の低下等による水質悪化により「粉末活性炭処理比率(A302)」の数値が上昇しました。

（２） 安定した水の供給

①運営管理

施設管理に係る指標については、一日平均送水量が増加したことにより、昨年度と比較して「施設利用率(B104)」「負荷率 (B106)」の数値は上昇しています。浄水施設の稼働状況は高効率である一方、施設の停止を伴う維持管理等の作業が困難になっている状況です。

事故災害対策に係る指標については、1 件事故が発生し、「管路の事故割合(B204)」の数値が上昇しました。浄水場事故・管路事故等の防止に努めるとともに、危機対応に向けた災害対策訓練の充実に努めていきます。

環境対策に係る指標については、導水管の２条運用を行ったことにより電力消費量が減少したため、「配水量１ｍ^{3}当たり電力消費量(B301)」「配水量１ｍ^{3}当たり消費エネルギー(B302)」の数値が改善しましたが、電力供給元の電気事業者排出係数の増加に伴い、「配水量１ｍ^{3}当たり二酸化炭素(CO2)排出量(B303)」の数値は悪化しました。

②施設整備

施設更新に係る指標については、「法定耐用年数超過管路率(B503)」の数値が悪化しました。令和 7 年度から着手した第二送水管整備事業を推進し、安定給水の継続に努めていきます。

事故災害対策に係る指標については、「薬品備蓄日数(B609)」の数値が悪化しましたが、薬品備蓄日数は 20 日以上を維持しており、災害時にも対応できる貯蔵量を確保しています。

（３） 健全な事業経営

健全経営に係る指標については、物価上昇等の影響により、経営環境は引き続き厳しい状況が続いており、「営業収支比率(C101)」「料金回収率(C113)」等の数値が悪化しています。

人材育成に係る指標については、研修対象者や研修内容が年度により異なるため、昨年度と比較し「外部研修時間 (C202)」が減少していますが、知識及び技術の継承を目的とした職場研修を計画的に実施しており、「内部研修時間 (C203)」は増加しています。

情報提供に係る指標については、浄水場内で施工する工事が少なくなったことから、小学生の浄水場施設見学の受入を再開したことにより、「水道施設見学者割合(C403)」の数値が改善しました。

総括

業務指標を算出した 78 項目のうち、17 項目が昨年度と比較し改善しました。

今後も、北千葉広域水道ビジョンに掲げる基本理念「安全・強靭・持続のもとに地域を支える広域水道」のもと、各種取組を着実に実行し、安全で良質な水道用水の供給に努めて参ります。